

絶滅危惧類 ヒゲゴケ科

レイシゴケ

Myurella sibirica (Müll. Hal.) Reimers

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 繊細な種で植物体は灰緑色を呈し、茎を含めて7mm前後。茎は不規則に分枝して塊をつくる。葉は円形ないし広卵形で深く椀状に凹み先端は急に長くとがる。葉縁には基部まで鋭い刺があり、中肋は短いか欠く。葉身細胞の背面中央に1個の大きな刺状のパピラがある。日本ではさくは見つかっていない。

【分布】 北海道、本州、四国、九州のほかシベリア、中国、カシミア、コーカサス、ヨーロッパ、北米に分布する。

【県内の分布、生育状況】 霊山町、南郷村の石灰岩地からの記録があるが、生育地が石灰岩の割れ目や凹地なので見つけにくい。

【生育に影響を与えている要因】 石灰石の採掘、森林伐採、生育地の乾燥化

絶滅危惧類 ヤナギゴケ科

ササオカゴケ(アオモリカギハイゴケ)

Sasaokaea aomoriensis (Paris) Kanda

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 植物体は匍匐し、長さ10cm前後になり、不規則に分枝する。葉は卵形ないし卵状披針形で基部は広くなり、葉先は次第に狭くなり短く、時に鈍頭の葉先となる。葉縁は上部に歯があり、中肋は葉身の3/4に達する。葉細胞はくねった線形であるが、形状には変化がある。翼細胞はほとんど分化しない。胞子体は知られていない。

【分布】 本州、四国、九州のほか台湾に分布する。

【県内の分布、生育状況】 沼地や水田又は灌漑用池側の湿地に生育する。県内では猪苗代湖畔のヨシ群落内に生育していたが、最近は個体数が極度に減少した。時々、水中にも生じる。

【生育に影響を与えている要因】 湿地開発、宅地造成、池沼開発、観光開発

【主要文献】

Kanda, H., 1976. A Revision of the Family Amblystegiaceae of Japan . J. Sc. Hiroshima Univ. Ser. B. Div. 2, 16 : 74-77 .